

下水道における新型コロナウイルスに関する調査検討委員会 設置趣旨

今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるウイルスは、感染者の糞便等から検出されることがあるとされている。このため、国内外で下水からの新型コロナウイルスの検出が報告されているが、下水処理場等での挙動については十分に把握されてはいない。

また、世界各国において下水道の有する情報を活用した感染拡大防止対策などの調査研究も進められている。

我が国では、令和2年5月に日本水環境学会がタスクフォースを設置し、下水処理場から採水した下水を用い、新型コロナウイルスの定量分析手法の確立などに向けた調査研究を実施しており、同年12月には「下水中の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル(暫定版)」がとりまとめられたところである。

本検討委員会は、上記の状況を踏まえ、下水処理場への流入下水、放流水等における新型コロナウイルス濃度の測定結果に基づき、下水処理場内の処理過程における新型コロナウイルスの挙動実態を整理するとともに、保健衛生部局の感染拡大防止対策に寄与できるよう、下水道部局におけるウイルス濃度の測定のあり方等について検討を行うものである。